

近江米の流通状況(中間報告)および「みずかがみ」の作付動向について

1 近江米の流通状況調査について(中間まとめ)

- (1) 目的 近江米の流通実態を把握し、生産・流通ビジョンに反映する。
 (2) 調査対象 県内農業者(経営規模階層別に抽出)、県内の主要な米集荷業者、
 県内外の主要な米卸売業者
 (3) 調査結果の概要(平成27年産)

① 流通動向

平成27年産米生産量 154,200t(主食用米)
 農林水産省「作物統計」から算定

※米収穫量(主食用)から、種子用、酒造用等を除いている

ア 農家による直接販売等の量と集荷業者への出荷量(推計)

農家直接販売・自家消費等 62,600t (40.6%)	集荷業者へ出荷 91,600t (59.4%)
------------------------------------	-------------------------------

○農家による直接販売等(自家消費・縁故米等を含む)は約4割、JA等集荷業者を通じた販売は約6割となっている。

イ 流通先別の量(推計)

県内 76,100t (49.4%)	県外 78,100t (50.6%)	内訳 近畿 95% 関東 2% 中京 2% その他 1%
--------------------------	--------------------------	--

- 県内・県外別はほぼ5割ずつで、県外流通の大部分が近畿地域へ流通している。
 ○県内向けの流通量は、県民の米総消費量(約89,500トン:人口×1人当たり消費量)の85%に相当する。

ウ 用途別の流通量(推計)

業務用 46,700t (30.3%)	家庭用 83,000t (53.8%)	その他(自家消費等)24,500t (15.9%)
---------------------------	---------------------------	------------------------------

○業務用としての流通量は約3割、家庭用としての流通量は5割強を占める。

② 米卸売業者からの評価(主なもの)

- ・品質、食味、価格が安定しており、量販店等の評価が高い。
- ・環境こだわり米を中心に、安全・安心の取組が進んでいる。
- ・業務用について、安定供給ができていない。

(4) 今後の調査予定

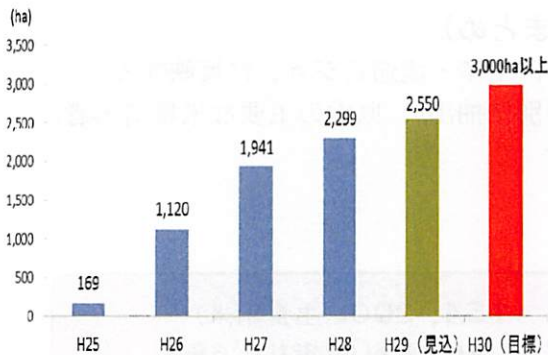
- ・米卸売業者の需要量(品種、用途)等について取りまとめる予定。

(5) 調査結果を踏まえての対応等

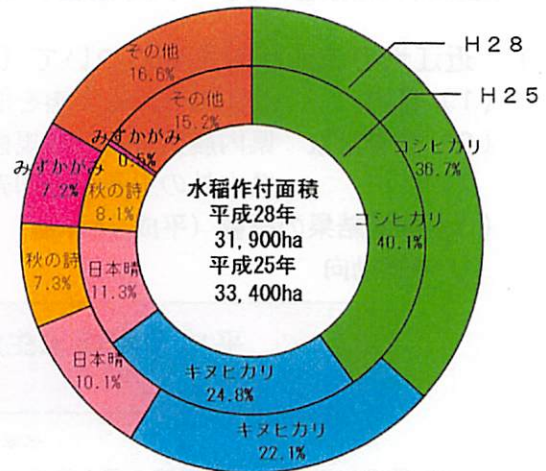
- ①調査結果を分析し、県および農業団体・市町等で構成する近江米振興協会において、今年末を目途に近江米の生産・流通ビジョンを策定する。
- ②県と集荷業者・生産者団体等が連携し、平成30年産からの「米政策の見直し」による「生産目標」を守るよう周知徹底し、併せて、需要に応じた米づくりについて、農業者への働きかけを強化する。

2 「みずかがみ」の作付動向について

(1) 「みずかがみ」の作付面積推移



(2) 品種別作付面積割合の変化



(農林水産省、滋賀県農業経営課)

(3) 「みずかがみ」の生産量、集荷数量、需要量の推移と目標

	H25	H26	H27	H28	H29(見込)	H30(目標)
生産量	894	4,943	8,480	10,750	12,700	15,000以上
集荷数量	815	4,150	6,922	8,598	10,000	13,000以上
販売目標・需要量	—	販売目標 10,000			需要量 12,900	13,000以上

※H25～28の生産量は農林水産省公表の検査数量、H29は見込

※H25～28の集荷数量はJA全農しがの集荷数量、H29は見込

※H29の需要量は主要卸業者からJA全農しがに対する購入希望数量

(4) 作付拡大に向けた取組

マーケットインの視点を重視しながら、関係団体と連携し、次の取組を進める。

- ・各地域の農業者大会や集落農談会等を活用し、消費者や卸売業者の高い評価と確実な需要が見込めることについて、生産者に情報提供を徹底
- ・JA等の生産部会等において、仲間づくりと一層の面積拡大を働きかけ
- ・大規模農家等で組織される団体に対して生産拡大を呼びかけ
- ・より食味と品質に優れたプレミアム「みずかがみ」※の生産を支援し、価格的なメリットを提示しながら、作付拡大を推進

※プレミアム「みずかがみ」: 整粒歩合 80%以上、食味値 80 点以上など厳しい品質基準を満たす「みずかがみ」のことで、JA等の集荷業者では、これを別途販売することで近江米ブランドの向上につなげる取組が行われている。

- ・JA全農しがでは、卸売業者等の平成30年産米の購入希望数量を把握し、各JAに作付提案することとしており、この取組とも歩調を合わせ、積極的に生産拡大を進める。